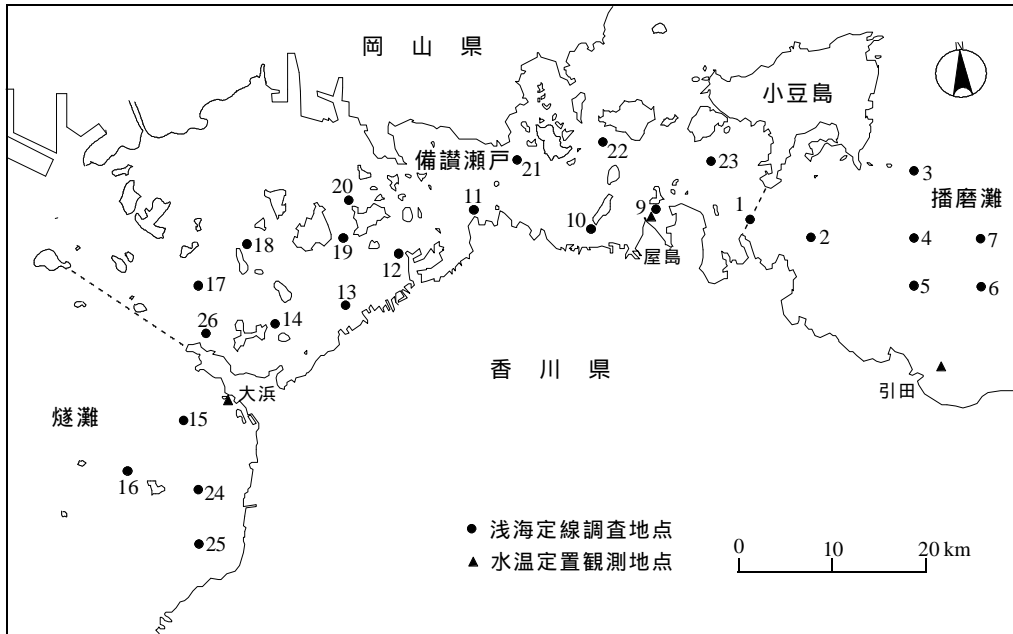


# 香川県漁海況速報 平成20年 6月 (H20-3号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

#### (1) 調査日

平成20年6月3日 (播磨灘) 2日 (備讃瀬戸、燧灘)

#### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや低めからやや高め」、塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「平年並みからやや高め」、溶存酸素は「やや低めからかなり高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	17.7	17.5	15.9	32.2	32.3	32.5	10.9	5.34	4.95
	平年値	18.4	17.1	15.4	32.0	32.1	32.3	9.6	5.37	4.60
	平年偏差	-0.7	0.4	0.5	0.1	0.2	0.2	1.3	-0.03	0.35
	状況	やや低め	平年並み	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	18.4	18.2	18.0	32.6	32.7	32.7	5.1	4.90	4.83
	平年値	18.0	17.6	17.4	32.2	32.3	32.3	5.0	5.21	5.08
	平年偏差	0.4	0.7	0.6	0.4	0.4	0.4	0.1	-0.31	-0.25
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	やや高め	平年並み	やや低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	20.0	16.6	15.7	32.9	33.4	33.4	13.6	5.34	5.33
	平年値	20.4	17.0	15.2	32.5	32.7	32.9	10.3	5.42	4.38
	平年偏差	-0.5	-0.3	0.5	0.5	0.7	0.6	3.3	-0.08	0.95
	状況	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	かなり高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	( : 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	

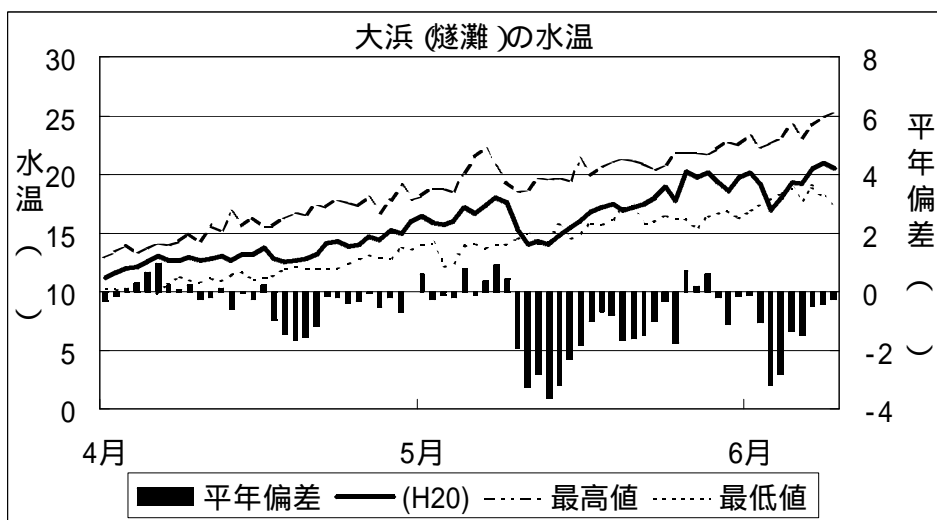
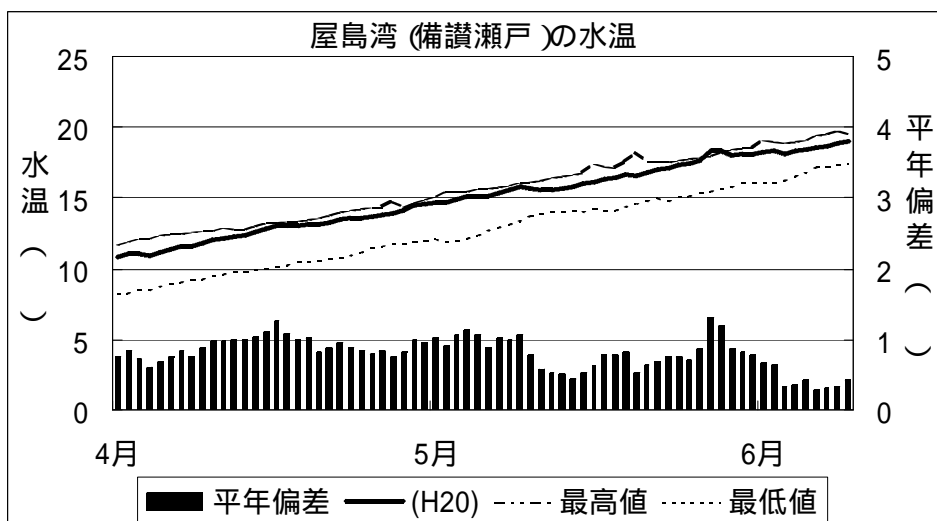
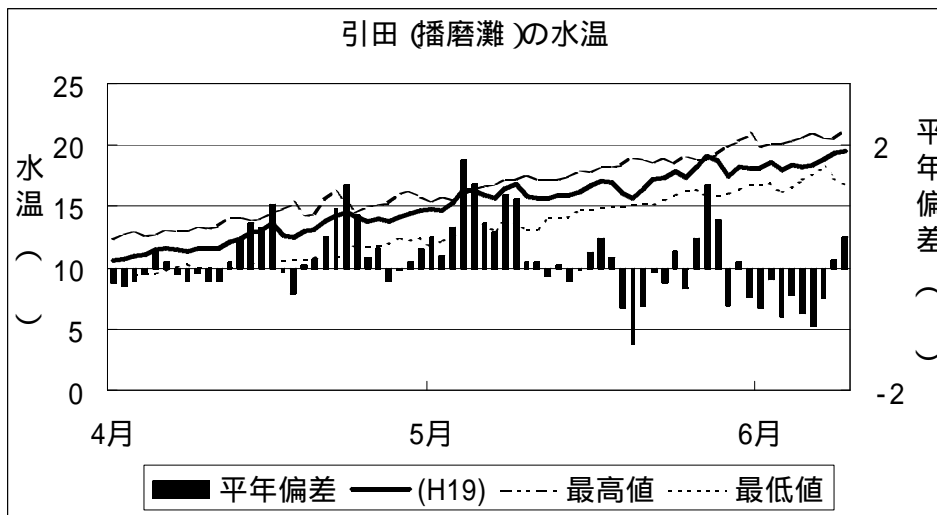
### 3) 定置観測(水温)

播磨灘(引田): 5月上旬はやや高めから著しく高め、中旬は平年並み、下旬はかなり低めからかなり高め、6月上旬はやや低めから平年並みで推移している。

備讃瀬戸(屋島): 5月以降やや高めからかなり高めで推移している。

燧灘(大浜): 5月上旬は平年並み、中旬は著しく低めからかなり低め、下旬はやや低めから平年並み、6月上旬は著しく低めから平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成19(2007)年  
屋島: 昭和50(1975)~平成19(2007)年



#### 4) 赤潮 (5月9日～6月9日)

播磨灘：4月9日から5月22日まで南西部でノクチルカ赤潮が継続して発生した。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

#### 5) 卵稚仔

調査日：平成20年6月3日 (播磨灘) 2日 (備讃瀬戸、燧灘)

出現量

カタクチイワシ卵の出現量は平均12.69個/曳網 (対平年値38.7%) であった。

## 2. 漁況

5月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底曳き網では主に小エビ類、ウシノシタ類、メイタガレイを漁獲しているが、全般的に低調である。</p> <p>桁網ではマダイ、コノシロ、カタクチイワシ、マアジ(小)、ウマヅラハギ、コウイカ類が漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>大型定置網では主にマルアジ、スルメイカ、タチウオが漁獲されている。</p> <p>東讃のシラスの船曳網は5月23日から操業が開始されたが、不漁で、5月の漁獲量は前年を大きく下回った。</p> <p>さわら流し刺網の5月までの漁獲量は前年を大きく下回っており、大きさは2～4kg サイズの2才魚が主体である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底曳き網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マダイ、小エビ類、コウイカ類、テナガダコ、アカニシが漁獲されている。</p> <p>高松・庵治沖のイカナゴ込網の5月までの漁獲量は、約1340トンで前年をやや上回っている。</p>
燧 灘	<p>底曳き網では主に小エビ類、アカカマス、クロダイ、タチウオ、シロギス、シャコを漁獲しているが、燃料高騰で出漁を見合わせている漁船が多い。</p> <p>サヨリ機船船曳網は6月の漁獲量は約100～150kg/日・隻前後と前年より少なく、漁期も終了間近である。</p> <p>イワシ機船船びき網は前年より3日早い6月10日から大羽漁が開始され、好漁である。</p> <p>さわら流し刺網の5月までの漁獲量は前年を大きく上回っており、大きさは2～4kg サイズの2才魚が主体である。</p>